

時間： 午後5時～午後7時15分 (ChST)

欠席者： 渡辺・今津

場所： 日本人学校会議室

議長： 小和野

出席者： 権田、小和野、時任、井上、許
(オンライン参加) 武石、木村、柳澤、伊藤
(オブザーバー) 菅野、小林

記録： 木村

定数確認：理事の全員参加により本会議は正式に開催されることが確認された。

議事録上敬称略)

議題：

1. 報告事項

1.1 学校財務 予実採算報告 (時任)

【関連資料① (Bank Reconciliation) 関連資料② (CFS) 関連資料③ (予実管)】

BOG saving 口座の\$192,846.42 を新たに開設したメリルリンチの saving 口座へ移動する。

> 承認された

予実管理の中で、今次は対予算比の異常値のみの質問をしたが、特に入学予算に比して進捗 69%と、予算見積もり時の数値との乖離が大きい。実際の入学人数を確認すると、全日で予算比 2 名減 (予算 10 名、実績 8 名) だが、他方補習校は予算比 4 名増 (7 名、11 名)、幼稚部は予算通り (5 名)。本年度見通しの精査を次回理事会までに行うということだが、これらの分析も進めたい (武石)

月次予実比較の必要性がどこまであるのか？現在の表は実績値のある 4-6 月を表示しているが、合計は一年。予算と実績において比較がかみ合っていないところもある。授業料収入に関しては、昨年も同様であるが、年初にすでに約 46%程度の収入があがり、そこからキャッシュフロー的には定常経費分が下がっていく形。これを月次で分けるたほうが良いのか。どのような表示をするのが良いのか、皆さんの意見を頂きたい (時任)

会計処理について、発生主義から現金主義としていきたい。

本来、発生主義で行うべき期間が経過した時点で売上げに振り替える会計作業などが、出来ていない。利益を追求する企業ではない NPO (学校) でもあることから、会計処理を現金主義として、年度末に調整する処理が現業に即していると考えられる (小林)

年度末の按分作業は増えると思うが、運営上よい考え (柳澤)

収入に関しては、実績を基に按分し、期末見込予測を次回の理事会にて報告する (時任)

> 承認された

1.2 中期計画 途中経過報告（時任）

【関連資料 3ヵ年計画（ドラフト）】

学校内での共有資料として作成した。先ず学校内で、今それぞれの部門が何を行おうとしているのかという、共通認識を持つために作成した。教員という職業の特性上、Think logically, act emotionally, というアプローチが必要で、故に、言葉の選びからを含め手紙の様な中期計画になっている、教職員の心に一番とどく方法で考え抜いた上での表現となっている。今後ホームページに掲載や、寄付集め活動の際などにも活用する事となるが、その際には読み手に合わせて見せ方を変える必要がある。今後理事会にて、経営理念についても共有と討議を行いたいが、それ以前に児童生徒の学力水準が低い。今まで実力テストの結果が開示されていなかったが、松浦校長のコメントとしても、相当低い部類だとのこと。本結果分析を優先し、学力向上に関しても今後の計画の中で取り扱っていく必要がある。

経営理念含めて、学校の中期経営計画は9月ごろに方針を出す予定になっているので、引き続き議論を進める（小和野）

1.3 第47回日本人会チャリティーゴルフ大会報告（小和野）

【関連資料 47th チャリティーゴルフ大会報告書】

6月23日（日）第47回日本人会チャリティーゴルフ大会が、レオパレスリゾート CCにて開催された。参加者62名、バナー協賛20社、寄付金1社・1名、協賛賞品（26社）をご提供いただいた。諸費用を控除した約\$10,730をグアム日本人学校に寄付する。

学校の参与と持続性を伺いたい。以前は学校に寄付が行くからと半強制的に先生・事務員をボランティア導入したこともあれば、その逆に参加希望者のみで、運営は日本人会ということもあった。（武石）

先生の参加は2名、加えて時任・許が参加（時任）

日本人会教育部以外の理事の協力もあって開催できた。駐在員の理事だけでスポンサーに寄附を募るのは難しく、永くグアムに在留している理事の方の力添えがあってなりたっている。持続可能性はあると思うが、課題として、学校側が寄付の活用方法や実績をスポンサーを含め周囲に示すなど、チャリティーの納得性を持たせる必要性が感じられた（小和野）

これは日本人会にて検討すべきであるが、秋祭りが春に延期された中、各企業では毎年の寄付金額がある程度決まっているので、どのイベントにどのくらい寄付頂くか、これらを十二分に検討して寄付を募るようにすべきだ。（武石）

2. 討議・承認事項（○ 起案者）

2.1 2023年度学校会計監査について（小林/○時任）

【関連資料 監査報告書】

小林、時任、事務員2名、会計井上、今津にて監査をした結果、財務諸表は概ね適正に表示されていた（小林）

監査修正仕訳について、事務長不在期間が9カ月間と長かったため、諸々指摘や改善点はあった。

Audit Adjustmentとしては、理事会で確認を得たいのはItem #1、PLにある「471-C・DONATION FM GOV.OF JPN (R)」と「472-C・DONATION FM GOV. OF JPN GYM」、Donationで約\$150,000の減少が少なくなっている。これについてはAudit Adjustments Sheetに特記しており、前年度に未収金として計上していたが、本年度は計上せず、2025年5月に売り上げをたてるのが正しいと考えているが如何か（今後現金主義に移行する事も踏まえ）。或いは、会計の継続性を持たせるため、未収金を上げるのも選択肢だが、費用側は一定の条件が揃えば網羅的に未払計上すべきだが、売上は100%入って来る条件が揃わなければ、未収計上は慎重に行うべきと思われる。日本政府からの金額確定は政府マターであり、金額は翌年度5月にならないと確定しない。それを7月まで未収計上して、監査する、これは実効性に欠けると考えている、以下全9項目（小林）

Item #2 Prepaid expenses、前年度の未払い金を消込した。

Item #3 DPHSS 指摘のフェンスを急遽修理、これを資産計上して、減価償却に回した。

Item #4 固定資産の減価償却を見直した。

Item #5 2023年に帰属した費用を2024年に処理した。

Item #6 未払い費用の消込が出来てなかった。

Item #7 台風の被害に関する受取り保険金を「その他Income」の科目に振り替えた

Item #8 繰り延べ収入（授業料、登録料）2023年3月に入金、売り上げに振替えた。

Item #9 当期支払組替（体育館ローン）

運用上での改善点としては、実施棚卸がされてない事。NPOなので、PLは年度末に直せばよいが、固定資産の管理（寄付贈が多い）を強化すべき。会計処理としては、基本は現金主義にて運用し、年度末は発生主義に戻す。毎月バンクリコンを共有しているが、期を跨ぐものの調整がされてない事（勘定照会のみ）。今期、固定資産の整理（棚卸）を先決し、管理を次、固定資産する金額の決定はその次（現在\$1,000）。尚、新聞への決算公告は無くなった、税務申告をすれば、決算書がR&TのWEBサイトに載るので不要。（小林）

資産台帳は事務局にて帳簿付けしている、今後棚卸（半期から期末）を見越し、小林監事の協力を得ながら、準備していく（時任）

> 承認された

2.2 プレジデント3ヵ月試用期間評価について（○権田）

レビューアー2名の内容を踏まえ、評価を行った。時任さんへのFBを対面にて行う。

2.3 プレジデント評価KPIについて（小和野）

作成された評価スキームを説明（小和野）

評価が5段階だと中間を選ばれ、適正な評価になりにくい為、4段階評価 Need significant improvements, Need improvement, Good, Excellent としてはどうか（伊藤）
承知した（小和野）

Quantitative Evaluation の”Achievement”の比重が 40%となると、何かを立ち上げないと
いけなくなるので、他項目と按分して 25%按分としたほうがよい（柳澤）

初年度でもあることから賛成する（許）

承知した（小和野）

中長期的に使用し、他の教職員でも汎用するのであればこのようなマトリックスを作成し
運用することは理解できるが、対象が 1 名で、尚且つ、このマトリックスでは評価できな
い部分の成果への読み替えが難しくなる点等も考慮すると、ここまでやる必要が、このた
めにそこまで労力を割く必要があるのか（武石）

多くの労力や時間を KPI に割くつもりはないが、そのためにも、期末の段階で合理的に評
価できる、双方が合意した機械的に算出するスキームを持っておくことが必要と考えてい
る（小和野）

当スキームは事前に時任さんと確認したものであり、'Issue'と'Solution menu'は本人に記
入いただいている。（小和野）

補習校の項目がない、提示して頂きたい（許）

幼稚部のたんぼぼ組は、全・補共有の取組みである（柳澤）

万一、期末まで様子を見て、頑張りが表現できない Form の場合は、理事会で内容をまた
協議しよう（柳澤）

時任さんからは Task・Result シートが提出されている、これに一般 Review 項目（風
紀・協調性など）を加えて、包括的に評価すべき（伊藤）

現業の評価と KPI 評価は別に考えている（小和野）

全く関連性がないわけではないが、別で考えてよい（伊藤）

3. 各部報告

3.1 学校より報告（時任）

【関連資料①（プレ報） 関連資料②（生徒受入） 関連資料④（中実テ）】

プレジデントより報告がされた。

3.2 PTA より報告（柳澤・許）

6/27 PTA 役員会を開催した。運動会の収支報告\$1,000 寄付を受領、経費を除くと約
\$790。本年度あと\$1,000 ほど寄付集めを試行中。また、競技内容や、継続性の協議、及
びフォトブックでの Canva の使い方などを討議した（柳澤）

秋祭りが延期された 11 月に新イベントを企画中（許）

4. 次回の予定

第 4 回 学校理事会 8 月 10 日（土） 17:00 より

以 上